

琉球大学学術リポジトリ

巻頭言

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2023-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 萩野, 敦子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019843

「超スマート社会」とされる Society. 5.0 時代を迎え、教育の現場も激変の荒波にさらされていますが、旧来の学校文化や精神主義的な教育システムも残存し、古さと新しさの狭間で苦しむ学校教員も少なくないようです。「教師／教員不足」の話題がメディアを賑わす現今、教職大学院に学ぶ皆さんの後輩を育てる教育学部においても、学生たちの教職に対する夢や意欲をいかに維持し、さらに高めるかということに、頭を悩ます日々です。

先日、教員生活三年目を迎えている卒業生三人が、大学に顔を出しました。聞けば三人とも「教員生活は大変だが楽しく、辞めたい思いはない」とのことなので、何がそうさせているのか話を聞かせてもらいました。もちろん全てが順風満帆だったわけではなく、一人は小学三年生の難しい学級を受け持った一年目に「生まれて初めてじんま疹が出た」そうですし、一人は初任時に中学生への生徒指導で言葉が出てこず苦しんだといいます。もう一人は受け持ちの生徒が中学二年生になり思春期・反抗期を迎えた教員二年目に、子どもの背景を考えず目に見える現象面のみを叱責する日々が続き、みるみる子どもたちの心が離れて辛かったと語りました。それでも笑顔で教員生活を送れている理由は複数あるようですが、三人に共通していたのは、同僚・先輩教員からの助言や激励、共感といった言葉が支えになったということです。三人とも「職員室が対話の場になっており居心地がよい」と口を揃えており、良い職場・良い管理職に出会えた幸運もあったでしょうが、同時に、周囲に心を開き他者の言葉に耳を傾けられる寛容さや素直さを持っているからこそ、今があるのだらうと感じます。今後さらに経験を積み、いずれは苦しんでいる同僚や後輩に寄り添い、一緒に課題を解決していく立場になってくれるにちがいありません。

学校現場といえば「教師／教員と子どもとの関係」に目が行きがちですが、この困難な時代を乗り切るには「教師／教員同士の関係」が大きな鍵となります。昨年12月、文部科学省から中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～が発出されました。教育政策たる答申は、「組織の力」を支えるものとして教師一人一人が学び続けることや国や地方自治体が教師の働きやすい環境を整備すること等を掲げますが、それらに連動して、同僚が互いに尊重し合い寄り添い合う、まさに児童生徒の学級内における「支持的風土」のような関係の構築が、必須でしょう。

この『んじたち』は院生一人一人の「学び」の成果を発信するものですが、その「学び」を支えたのが共に学校教育の課題を追究する「同僚」同士の、互いに切磋琢磨しつつも温かな関係であったことを信じ、今後も皆さんが繋がり続けることを願ってやみません。